

情熱の火もろう一度

新座市立池田小6年

和田 美羽奈 12(新座市)

「自分って、ろうそくみただな」。ある日ふと、そんなことを思いました。ろうそくは、最初は勢いよく燃えますが、だんだんと短くなくなって、最終的には消えてしまいきます。

私は、小学二年生の冬にサッカーを始めました。最初の頃は本当に楽しくて、毎日学校でも男子とサッカーをし、家に帰ってもサッカーをするという生活を送っていました。ろうそくに例えるなら、ちようど火がついたばかりの頃です。

しかし、高学年のチームに入ると、自分は本当にサッカーが好きなのか分からなくなってきました。この時期は、ろうそくで言えば、風が吹いて炎がゆらゆらと揺れ消えそうなきじです。そして六年生になったとき、私はサッカーをやめようかと決意しました。ろうそくで例えるなら、燃え尽きて消えてしまった状態です。

でも、もう一度サッカーに對する情熱を思い出して、自分の心のろうそくに再び火を灯したいと思っています。